Japanese Council of Science Museums Newsletter Vol.39. No.2

全科協ニュース

URL http://www.kahaku.go.jp/jcsm/

全国科学博物館協議会 〒110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9863 Fax.5814-9898 平成21年3月1日発行（通巻第225号）

平成20年度海外科学系博物館視察研修報告

平成20年度海外科学系博物館視察研修 平成21年1月11日(日)～21日(水)では、オーストリアとドイツにおいて5つの博物館を公式訪問しました。各館について、「概要」「管理運営」「展示」「教育普及」の観点から報告します。

【フンボルト大学ベルリン自然史博物館】

1．概要

ドイツの首都ベルリンにあるフンボルト大学ベルリン自然史博物館は、1810年に設立され動物剥製や昆虫、化石、鉱石の標本3000万点を有するドイツ最大の自然史博物館である。同館は始祖鳥や世界最大級のブラキオサウルスの化石で有名だが、2005年から恐竜ホールを中心に改修工事を行い、2007年に全面リニューアルオープンした。

また、2009年1月から、連邦と州政府の共同助成により発足した研究機関のグループであるライプニッツ協会の所属となり、運営母体が新しくなった。

（国立科学博物館　井上　透）

2．管理・運営

2007年の概要によると、スタッフ209名の内訳は、教授5名、常勤研究者35名、非常勤研究者28名、技術者（維持管理等）99名、学生助手42名である。年間予算額は約35億円だが、そのうちの約40%が州、EUからの資金、約40%が宝くじ協会からの助成である。2007年の研究費1,312,600ユーロを除いた支出の割合は、人件費36.3%、研究・資料・運営4.4%、出版・図書0.6%、展示・PR21.6%、通常経費・設備・サービス4.4%、建物31.8%、投資0.9%であった。

改修前の入館者数は年間約25万人だったが、リニューアルオープン後の2007年には約40万人、2008年には約80万人と飛躍的に入館者数を伸ばしている。これは、リニューアルオープン時に行った大規模な宣伝効果が功を奏した結果である。また、その後今日まで大規模な宣伝を行っていないにもかかわらず入館者数が増加しているということについては、来館者の口コミやリピーターの増加など、間接的な宣伝効果がうまく機能しているものと思われる。

訪問者の内訳は、大人17.0%、割引券14.4%、団体割引10.1%、家族31.6%、無料入館19.1%、特別展7.8%である。また、学生、研修生、無職者、軍・市政サービス関係者は割引、幼稚園児以下は無料である。

（国立科学博物館　村上　良行）

3．展示

EUの地域開発プロジェクトとして2007年7月にリニューアルオープンを行った。リニューアルを実施するにあたり、伸び悩む博物館の来館者を増やす為に展示の工夫として大きくふたつの事を実施した。

ひとつは、オリジナルの展示。例えば貴重な始祖鳥の化石の展示を実現する為に、見せる事の出来る金庫を造り、それを来館者に見せることで破損の可能性も無くなり、一般の来館者も化石のオリジナルを見ることが出来るようになった。

もうひとつは、展示の解説を館側からの押し付けの解説ではなく、来館者が興味のある項目を選択する事が出来る独自の展示解説システムを開発した事。このシステムはテキストとムービーが一体化しており、来館者が見たい項目を選択し情報を得ることが出来る。館導入部には当館の目玉の展示である恐竜が展示してあり、入館する意欲を高める効果がある。また、その先に来館者を引き込む工夫として地球儀に可動する映像システムを取り付けた展示装置を造り奥への興味を持たせるなど、視覚的に訴える展示の工夫を行っている。これらの手法を取り入れる上で最新の美

始祖鳥展示

術館の手法を聞き取り、参考にしたとの事である。

（株式会社乃村工藝社　加藤　明）

4．教育普及活動

公式訪問では展示についての話が中心で、教育普及活動については聞くことができなかった。しかし、入り口から一番奥、多くの展示室を通り抜けた先に位置する、体験型教育普及活動の行われる「フンボルト・エクスプロラトリウム」で、学校団体向けプログラムの後片付けをしている大学院生スタッフに声をかけ、話を聞くことができた。その時は石膏の型から化石レプリカを作るプログラムの片付けをしていた。これは私の勤める鳥取県立博物館でも人気がある行事だ。この部屋ではほかに、恐竜復元模型の組み立てや、砂場のようなところでの化石発掘体験、恐竜のペーパークラフト作りなどができる。顕微鏡メーカーのツァイスがスポンサーになり「顕微鏡センター」というコーナーも作られていて、微生物の観察などもできる。ほとんどのメニューは団体による電話での事前予約が必要。６歳以上が対象のお誕生会（展示解説と化石発掘体験が組み込まれている）も毎日行われる。プログラムの種類は多くないが、毎日５～10件の教室やお誕生会が行われているという。教育専門の職員の他に40人程度の博士課程の大学院生がアルバイトをしていて、この数の行事をこなしているという。

（鳥取県立博物館　有川　智己）

【ウィーン自然史博物館】

1．概要

ウィーン自然史博物館は、美術史美術館と向かい合った場所に位置し、ヨーロッパでも最も古い自然科学系の機関のひとつである。博物館の基礎は、女帝マリア・テレジアの夫君である皇帝フランツⅠ世によって築かれている。フランツⅠ世自身、研究者としても活動しており、ダイヤモンドの完全燃焼性についての実験に使われた道具が館内に展示されている。

博物館はカイザー時代に作られた建物を利用しているため、建物自体も文化財として重要視されている。伝統と革新、美術と科学の融合をなした博物館として評価が高い。39室ある展示室は絵画や彫刻で飾られ、独特の雰囲気を持ち、約2000万にも及ぶ資料を展示している。19世紀の研究室を再現した部屋、ラスコーやアルタミラなどの洞窟を再現した部屋がある。隕石については、世界でもナンバー１のコレクションを誇り、重要な研究課題とされている。展示については、レッチュ館長の意向により、本物や立体（３D）を展示することにこだわりを持つ。また、生きた展示として、館内に魚類、は虫類、鳥類などの展示もある。2007年の入場者数は約39万7000人に及び、前年より３万人近い伸びを見せた。　（国立科学博物館　渡部珠代）

2．管理・運営

歴史と伝統を背負った博物館であるだけに、課題は「伝統とイノベーションとの調和」そして「学術と美術工芸との融合」とのことである。すでに館長歴20年のレッチェ館長はもともと環境問題を専攻する研究者である。このような人材をあえて投入した設置者の判断は高く評価されるであろう。地球環境問題など現在的なテーマ、そして最新の展示技術を旧来の展示の中に導入することに成功している。

予算規模は年間約20億円、職員数は約200名。収入の約80％は国庫等からの資金によって賄われ、「売上純益」及びイベントなどの収益は約17％である。支出では人件費が約70％を占め、標本展示拡張費並びに収集品割当金の合計は日本円に換算すると6600万円程度（3.3％）である。

（大阪市立自然史博物館　山西良平）

3．展示

約250年前の王朝時代に建設された荘厳なバロック建築は、最初から博物館として建設されており、各展示室は天井が高く美しい装飾が施されている。

考古学、生物学、人類学などテーマ別に資料を展示した部屋は、世界中の標本を集めたかのような膨大な量に圧倒される。また、「ヴィレンドルフのビーナス像」と呼ばれる旧石器時代の土偶をはじめとした、世界的に貴重な資料

も公開されている。

伝統的な資料展示だけでなく、映像等を用いた最先端の手法も取り入れている。微生物のコーナーには、顕微鏡のリアルタイム映像を投影する３Ｄシアター「ミクロアテーター」がある。解説員の方が、顕微鏡の下に次々とシャーレを置き、説明をしてくれる。微生物が動き回る様子を立体視することは、驚きに満ちた体験だった。この空間は顕微鏡が発明された19世紀の研究室を摸してあり、重厚でアカデミックな雰囲気が建物と非常に良くマッチしていた。

他にも、地球環境について学ぶ展示室や、子どもを対象としたハンズオンコーナー等も充実している。伝統とイノベーションの融合を、非常に高いレベルで実現させてあり、博物館の理想型を見たと感じた。

（株式会社丹青社　綿引　典子）

４．教育普及活動

この館の教育普及活動として、幼稚園生から小学校５年生までを対象とした様々な教育プログラムがある。この館独自のマイクロシアターは、生きた微生物などを拡大して３Ｄに見える大きな画面で学習するなど、学校の授業にも利用される。その他、日本にはないものとして、博物館で誕生日を祝うプログラムもある。

年少者を対象とした教育的な意図を持つ展示室があり、その展示室にはハンズオンから発展した資料を活用した発展学習をする場を設けている（子供達に人気の動物の水族飼育展示もある）。この展示室には、常時、教育学を修めた博物館教育担当者が体験学習をする子供の担当をしている。実際に行っていたプログラムは、実物展示されていた有名なヴィレンドルフのビーナス像を子供達が粘土細工で造形する体験学習である。又、作成した作品はその展示室に展示することもできる。

こうした体験学習から、博物館で楽しみながら学び、実験やリアルな映像を通して自然科学の原理原則を学び、実在する自然（実物）に接することで、大きな教育効果が得られると考えられる。

（光記念館　新谷朋永）

【ウィーン産業技術博物館】

１．概要

ウィーン産業技術博物館は市内中心部から少し離れたシェーンブルン宮殿に近くにあり、旧王宮（ハプスブルク家：皇帝フランツ１世）のコレクションをベースに1908年に開館した（今年は100周年祭を企画中）。ヨーロッパ内に４つある産業革命を語る博物館の１つで、開館当初の建物や展示方法はフランス、ドイツの博物館を参考に作られた（４つのうちもう１つはイギリス）。

1990年代に国より大規模な補助金が交付され、７年間という長期閉館をし、外観の補修や内装の改修（白を基調にしたモダン化）、展示品の増収をし、1999年にリニューアルされ現在に至っている。

常設展示のスペースは約22,000㎡、展示品は8000点（収蔵品の10%）で年間入館者数は30万人であり、入館者の内訳は児童生徒30%、家族30%、その他40%で子どもの利用が６割を占めている。

１人あたりの入館料は大人8.5ユーロ、児童生徒５ユーロ（６歳以下は無料）、その他小中学校と連携（授業等で活用：150校：年会費1000ユーロ）やファミリー券、年間パスなどの制度もある。　（国立科学博物館　上杉　将史）

子供達が色々な色で作ったヴィレンドルフのビーナス像の作品

館の概観

2．管理・運営

正職員は約150人であるが、展示の監視、警備、守衛および清掃については他の会社に外注している。一般にドイツにはボランティアの考えは浸透しておらず、この館にもボランティア的な仕事をしている人はいない。

正職員約150人の内訳は、以下のようになっている。

- 管理運営部門　10人
- コレクション部門　50人
  （5部門あり、修理、保管、資料、図書、棚卸に分かれている。）
- 館内全般技術部門　20人
- 学生等来館対応部門　5人
- 秘書、マーケティング部門　20人
- デジタルメディア化等部門　20人
- その他　25人

入館者を増やすということも大きな目的としており、このために将来の来訪者になり得る子供たちにターゲットを当て、19歳までの入館料を無料にする検討がなされている。

財務の面から見ると2000年までは政府（教育省）に属していたが、2001年から独立組織となり予算制度を取り入れた。年間で約1200万ユーロ（約15億円）の予算の80%は政府から、他の20%は自己調達である。予算の約半分は人件費である。またヨーロッパ諸国の博物館も一般的に行っているように特別展はスポンサーを募って実施するなどの施策を講じている。また、大きな改装等の費用は別途予算の要求ができるようになっている

政府の管理を離れたとは言え、監督は受ける。監査委員会を組織し運営を行っている。監査役等の構成は、教育省2人、財務省2人、館職員1人の5人である。来館者の人数によって評価され予算を増減されるということは原則としてなく、健全な運営をしているかが対象とされる。

（交通文化振興財団　荒木　文宏）

3．展示

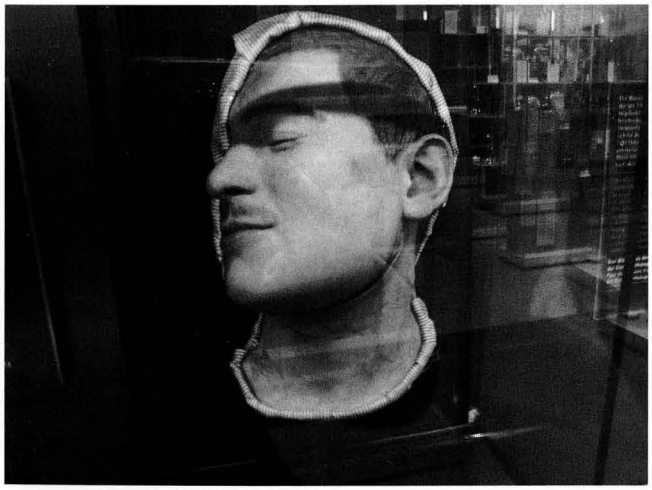
4フロアーにわたる展示スペースには、重工業、エネルギー、皇帝フランツ1世の収集資料、日用品、メディア・光学機器、楽器、輸送・交通、とテーマ別に膨大な資料が展示してある。また、楽しく科学の不思議さに触れることの出来る体験コーナーも設けている。

展示資料数は圧倒的に多く、自然科学の解明に貢献した実験・測定機具や、19～20世紀にかけて活躍した蒸気機関車や転炉などの大型資料、近年開発されたコンピュータなどの展示だけでなく、電球のソケットやブレーカー、洗剤などの展示・解説があり、身の周りの科学技術をも再認識させられる展示だった。最近、科学技術といえば難しく、とっつきにくいものと思われがちであるので、このような身近な製品から科学技術に興味を持たせる展示は大切だと思う。また、電気機器の取り扱い事故による負傷体部のリアルな模型を十数体展示することで、科学技術の負の側面を訴えかけているのも印象的であった。数多くの良質な資料が各テーマを網羅してあり、科学技術が生み出してきた身近さと重量感を感じることのできる展示であった。

（山口県立山口博物館　漁　剛志）

4．教育普及活動

多彩に展開されているガイドプログラム及びワークショップには、学校30%、家族30%、一般個人40%といった来館者内訳に適ったきめ細かい配慮があり、行政や企業と



電気機器の事故による負傷体部の模型

「味覚」ワークショップコーナーと担当者

の連携も随所に見られる。何よりも学校・家庭と対等に、積極的に向き合う教育面での自負が感じられた。ドイツ特有の博物館文化なのかも知れない。特に印象的だった３点を挙げる。

★博物館で親子誕生日パーティー

親子（３～12才）を対象としたと最大15人程度のグループ編成でワークショップ体験後、館からのケーキプレゼントと共にパーティーを楽しむ。会費は１人2,000円程度、昨年実施回数は190回とのこと。他館でも同様の例がみられ、ドイツでは定着した催しらしい。

★全国の小学校を対象とした宿泊受入

生徒は１人45ユーロ（6,000円弱）、教師は１人19ユーロ（2,500円）の宿泊費（食事付）で、寝袋持参で展示館に宿泊しながら見学・ワークショップ体験。ドイツ全国の小学校から受入れる。

★中学校授業へのプログラム提供

中学生の来館率が少ないことは日本と変わらないようだが、教科にこだわらない博物館主導のプログラムを学校カリキュラムに組みこんで実施している。

（ガスミュージアム　松本　英子）

【ZOOM子ども博物館】

１．概要

この館は、旧帝国厩舎の６万平方メートルの敷地跡に作られたミュージアム・クォーター・ウィーン（MQ）という大規模な文化施設の中にある。1980年代にＭＱ内の空きスペースを利用した子どもの体験広場という形で発足され、その活動の内容が認められて、2001年に現在の施設となった。オープンにあたっては協賛企業と共同でアメリカの同系ミュージアムを参考に企画された。

平日は学校単位、週末は家族での来館となっていて、年間入場者は11万人である。入場料は子どもが４～５€に対して大人が3.5€となっていて、子ども料金が大人より高いところは、まさしく子どものための博物館らしい。

（国立科学博物館　上杉　将史）

２．管理・運営

この館は、私立ながら国からの予算の援助も受けている。その額は予算の50％＝約210万€。また、SIEMENSをはじめ５社のスポンサーがついている。

職員14名、展示の解説やワークショップなどをするアルバイト約60名（教育関係者やカメラマンなど）で運営しており、職員の質の向上のため、常に指導・教育を行っている。これは、展示やワークショップが良くても職員の質が悪ければ効果的に伝わらない（逆も然り）、との考えからである。

（出雲科学館　　細田　実）

３．展示

この館の展示は４部門あり、それぞれ子どもを対象にしている。０～６歳児を対象とした「オーシャン」、３～12歳を対象とした「アトリエ」、７～12歳を対象とした「展示場」、８歳以上を対象とした「ラボ」で、それぞれ人数制限がある。

オーシャンは、船と海をイメージしたアスレチックのような空間で、床が斜めの道や、トンネル・ロープ・磁石などで自由に遊べるようになっている。長時間そこで遊ぶと子どもは疲れてケガの原因になるので１時間までしか入れない。アトリエは、本物の芸術家と１つのテーマを元に自由に工作をする。テーマは紙、色など半年ごとに変わる。学校や家庭ではできないスケールで創作活動ができる。

展示場では、企画展が開催されている。体験型展示で遊びながらその時のテーマを感じることができる空間になっている。ラボでは、マルチメディアを活用する。写真をとってコマ割で動くアニメーションをつくり、声や音も合成して一つの物語にする活動を行っていた。

（出雲科学館　　細田　実）

４．教育普及活動

この館は、「体を動かし体験を通して自分で考える力をつけること」を目的とした体験型博物館である。体験テーマは半年ごとに変わり、過去には「数学」「モーツアルト」

アトリエでつくった子どもたちの作品

等をテーマにして行い、訪問時は「古代ギリシャ」であった。この「古代ギリシャ」を子どもたちに体験的に学んでもらうために、展示物や体験活動には、様々な仕掛けが設けられていた。

また、この館の良さは体験や学びを子どもたちに決して強制していない点である。これは、館長の「アトリエでは作品よりもプロセスを大切にする」「マルチメディアコーナーでは、私たちは技術を提供し、アイディアを子どもたちからもらう。」といった説明によく伺えた。さらに、本物の芸術家やカメラマン等をスタッフにとして招き入れ、活動を展開している点もこの館の人気の秘訣だろうと感じた。

（浜松科学館　山崎　勝利）

【ドイツ博物館】

1．概要

ドイツ博物館は、1903年にオスカー・フォン・ミュラーによって創立された、世界最大級の自然科学と工業技術の博物館である。「過去の物を見せるだけではなく、現代、未来の技術も知ってもらう」という創立当初の意義のもと、来場者が「見る」「体験する」「(図書館で) 書物を読む」「レクチャーを受ける」というやり方を重視している。

博物館の床面積は5万1500㎡に及ぶ。さらに別館として、交通センター（1万2000㎡）とシュライスハイム航空博物館（8000㎡）を有する。後者は、空港整備場跡地の文化財指定を受けた建物を利用している。また、ボンにも小さな分館（1500㎡）がある。所有する資料は8万点を超え、書籍は85万冊を有する。資料収集については「量より質」を目指し、さらに、初めて作られた現物を収集・展示することが重視されている。

ドイツの観光名所であるノイシュヴァンシュタイン城をおさえて、国内で来場者数1位（140万人）を誇る博物館である。入場者のうち、1/4がイタリアや英語圏などの外国人観光客で、1/2が25歳未満の学生などである。

（国立科学博物館　渡部　珠代）

2．管理・運営

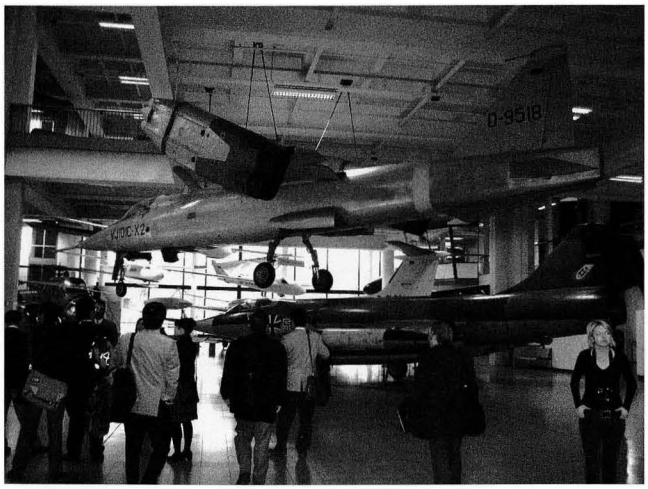
バイエルン州の首都であり、南ドイツの政治・経済・文化の中心であるミュンヘン市。その市内を流れるイザール川の小さな中州にとても大きな温度計と湿度計を備えた塔を持つその博物館は1925年に開館し、以来世界の多くの科学博物館が設立するに当たり、参考にしたと言われる。

1階～7階と地階のフロアに50以上の分野のコーナーを有し、スタッフ500名（正職員400名、パートやボランティアなど100名）の大所帯のドイツ博物館。年間の運営費約3500万€（人件費1,900万€、修繕費700万€、事務費900万€）に対し、全体の2/3をミュンヘン市（50万€）、バイエルン州（1,770万€）、連邦政府（370万€）、分館のあるボン市（80万€）からの助成を受け、残り1/3を入場料（500万€）、メンバー会費（100万€）、レストランやミュージアムショップなどのテナント収入（100万€）の他、講義室貸出料の収益などで賄っている。

ちなみに入館料は一般8.50€、子ども（小学生～大学生）3.00€、6歳未満は無料である。（船の科学館　佐伯　和央）

3．展示

ドイツ博物館は展示総面積51500㎡、50室以上の空間から構成される超大型博物館である。技術革新のマイスター的役割を担った大型実物資料の展示により、圧倒的存在感



ドイツ博物館の展示の様子

俯瞰目線によるダイナミックな展示空間

を持って来観者を産業技術の世界へと誘っている。

空間的な特徴は、何と言っても、大型資料を内包する大空間展示である。吹き抜け空間や、中間階を設けることで、多角的に俯瞰する観覧動線を確保し、実物が持つ魅力・迫力を余すところ無く来観者に提供をしている。また、その観覧道中に関連する資料を展示する事で、資料の相互関係を創出している。

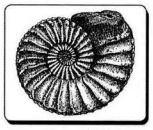
52に分類された展示は、テーマの関連性から空間の連続性を配慮した配置計画となっている。個々の空間は実物資料を見せるという共通ルールを持ちつつも、テーマに応じた特徴を持って展示演出がなされている。また、展示の途中にカフェやショップ（ガラス細工の実演を行っている）を点在させる等、来観者の疲労に対しても配慮がなされている。上記に挙げた様々な要因が空間の展開にリズムを産み出し、来観者を飽きさせず次のテーマへと誘う構成となっているように感じられた。

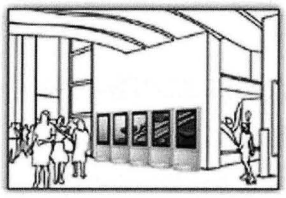
実演を兼ねたガラス細工のショップ

（株式会社乃村工藝社　鈴木　敦）

4．教育普及活動

平日に行われるプログラムとしては、高校生向けの実験教室がある。そのとき生徒が学校で学習している内容とリンクする内容のものを行っている。週末のプログラムには親子、子ども向けのものが多い。その一つが、子ども向けのガイドツアーである。6～12歳の子どもを対象としており、主として子どもの誕生日に両親がプレゼントとして申し込み、子どもの友達も誘って博物館を楽しむというものである。この種の誕生日イベントは、ドイツ博物館以外でもヨーロッパでは広く行われているとのことだった。平日、休日ともにあるものとしてはワークシートがある。シートはそれぞれの部門毎にあり、来館者が、展示をより積極的に見るように工夫されている。またシートは、学校のクラスでの来館の場合にも使用される。また、ある特定の季節にのみ行われるイベントもある。その一つが“Fairy-tales in the Museum”である。これは12月の週末に、役者や語り手を呼んで特別プログラムを行うというものである。これらのプログラムは展示とリンクする内容で行われる。その他にも地元の団体との連携プログラムなど、多種多様な活動を行っている。　（出雲科学館　小村　高弘）

TOKYO SCIENCE CO., LTD.
ミュージアム・ショップ向／教育用地学標本

since 1974
地学標本／化石・鉱物・岩石
古生物／レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル
◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F　TEL. 03(3354)0131（代表）◆
Fossils, Minerals & Rocks
株式会社 東京サイエンス
TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
http://www.tokyo-science.co.jp
E-mail:info@tokyo-science.co.jp
〒151-0051渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
Practical Specimens for Study of Earth Science

映像・情報配信ソリューション　NMstage
入館案内表示


パナソニックSSマーケティング株式会社
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-15-5 新宿三光町ビル
電話03-5919-5176　FAX03-5919-5216
http://WWW.pssm.co.JP

海外ニュース No.90 安井亮

ポルシェ博物館が開館

2008年はドイツの代表的な自動車メーカーであるポルシェ社にとって創業60周年にあたる年だったが、その記念事業のひとつとしてポルシェ博物館がこのほど2009年1月31日に本社があるシュトゥットガルトで開館した。80台の代表的なポルシェ車が見られるほか、創業者フェルディナント・ポルシェの業績を含む同社のスポーツ車開発の歴史が紹介されている。総事業費1億3,000万ドル。新しい建物は、ウィーンに活動の拠点を置くデルガン・メイスルによって設計された。延べ床面積：24,000㎡、展示面積：5,600㎡。

Porsche Museum, Stuttgart.
http://www.porsche.com/international/aboutporsche/porschemuseum/
http://www.porsche.com/japan/jp/accessoriesandservice/classic/world/museum/

シアトルのバーク自然史博物館で、コーヒー展を開催中。

周知の通り、日本でもアメリカのシアトル系のコーヒー店が多く見かけるようになった。スターバックスをはじめ、タリーズ、シアトルズ・ベスト・コーヒー、ピーツコーヒー・アンド・ティー、ゾッカ・コーヒー、ジャワ・コーヒーしかり。「スタバ」が旨いか、まずいかは、大いに意見が分かれるところだが（個人的にシアトル系の中で味は総じてゾッカが最もイケてると思っている・・・）、これらのコーヒー店の発祥の地シアトルにあるバーク自然史博物館（ワシントン州立大学）で現在コーヒーを取り上げた企画展が開催されている。コーヒー栽培の歴史をはじめ、生産、焙煎技術、飲み方、経済、環境問題、社会問題、そしてもちろん味を紹介している。会期：2009年1月24日～6月7日。

Coffee: The World in Your Cup.
Burke Museum of Natural History and Culture, Seattle.
http://www.washington.edu/burkemuseum/coffee/index.php

ロッテルダム自然史博物館で、インフルエンザ展が開催中

日本各地でインフルエンザが猛威をふるっているが、インフルエンザの流行が科学的に立証されているのは1900年頃からで、20世紀には4回のインフルエンザの大流行があった。1917年から1919年にかけて世界各地で猛威を振るった「スペインかぜ」は、全世界で6億人が感染し、死者は2000万人とも4000万人とも言われており、ヨーロッパでは今も人々の間で記憶に残っている。

現在オランダのロッテルダム自然史博物館で、H5N1型の鳥インフルエンザの歴史を紹介した特別展が開催されている。会期：2009年2月12日～10月25日。

H5N1 - de evolutie van een griepvirus.
Natuurhistorisch Museum Rotterdam.
http://www.nmr.nl/nmr/pages/showPage.do?instanceid=21&itemid=5845&style=default

ロンドン科学博物館で、未来の食べ物展を開催中

遺伝子組換え作物が将来の食糧危機のへの解決策として導入するか、悪魔のささやきとして反対するか、日本でも議論が白熱しているが、イギリスでも事情は同じである。また、日本と違ってその議論を博物館で堂々と取り上げらるのもイギリスだ。現在ロンドン科学博物館で開催中の企画展「未来の食物」はそうした議論を丁寧に取り入れた試みだ。同展のスポンサーは、国際農業研究協議グループ（CGIAR）。会期：2008年12月17日～2009年5月31日

Future Foods.
Science Museum, London.
http://www.sciencemuseum.org.uk/antenna/futurefoods/
http://www.cgiar.org/who/index.html

米オレゴン科学産業博物館で、ダ・ヴィンチ展を開催中

レオナルド・ダ・ヴィンチの科学と芸術の業績を紹介した特別展がオレゴン科学産業博物館（オレゴン州ポートランド）で開催されている。同展は既に10年にわたって、パリを皮切りに、パリ、モスクワ、メルボルン、サンパウロ、サンフランシスコ、リオデジャネイロ、マカオ、サンチアゴ、ブエノスアイレスを巡回してきたが、今回のオレゴン科学産業博物館の会場では世界で初めてダ・ビンチの代表作『モナ・リザ』を科学的に紹介した試みが見られる。フランス人カメラマンのパスカル・コット氏が240メガピクセルのデジタルカメラを使ってルーブル美術館で行った『モナ・リザ』の撮影で25の新発見が明らかになり、それらが初めて紹介されている。企画制作：Anthropos Association（ローマ）と豪グランデ・エキジビションズ社。ブダペストのVAMデザイン・センターでも同時開催中（2009年2

月7日～7月19日)。会期：2009年1月31日～5月31日。
Da Vinci: The Genius.
Oregon Museum of Science and Industry, Portland.
http://www.omsi.edu/featured-exhibit
http://www.davincithegenius.com/
http://www.afpbb.com/article/life-culture/culture-arts/2568661/3757857
http://www.vamdesign.hu/

英アバディーンの科学館で、生物多様性展が開催中

英スコットランドの古都アバディーンにあるサトロスフィア科学館は、スコットランド科学館機構の拠点館のひとつであり、その他のグラズゴー科学館やダイナミック・アース科学館（エジンバラ)、センセーション科学館（ダンディー）とともに、科学の啓蒙普及を展開している体験型の科学館だ。1988年の設立の背景には、当時イギリスの大学での理工系学部への進学率の低下があり（現在も進行中)、それを危惧したスコットランド自治政府と地元アバディーン大学の強い働きがけで、子ども達の間で将来の科学者を産むための「しかけ」として設けられた。

現在同館では生物多様性を紹介した特別展が開催されている。なぜ生物多様性なのか？また生物多様性の今日的課題が紹介されている。会期：2009年1月15日～3月22日。
Biodiversity Exhibition.
Satrosphere, Aberdeen.
http://www.satrosphere.net/

シカゴ植物園で鉄道模型展が開催

真冬の植物園で何が楽しめるか？多くの人がすぐに思いつくのは、外気の寒さから逃れるために、屋内の室温がなま暖かい温室に逃げ込むことだろう。近くにある井の頭公園（東京都・吉祥寺）の温室は、まさに熱帯の植物の中に鳥たちが隠れていて、それらを探すのが結構楽しい。

シカゴ植物園では、冬になると恒例の企画展が開催され、子どもを含め多くのシカゴっ子（Chicagogian）の間で人気を博している。先頃開催されたその企画展とは、園内にあるレーゲンスタイン温室の鉄道ジオラマ展（930㎡）だ。そこではいろとりどりのホンモノの花がたくさん用意され、それらの中で鉄道模型が走っている。その様子を撮影したビデオがYouTubeにあったので、ふだん植物園に行くことに興味が湧かない読者諸氏も、是非この短いビデオクリップを見ていただきたい。シカゴ科学産業博物館のミニチュア模型等も見れる（http://www.youtube.com/watch?v=p-ZrrUYCkMg)。園内のジオラマは、ケンタッキー州アレクサンドリア市にスタジオをかまえるデザイナーのポール・ブッセ（Paul Busse）が手がけた。ブッセはシカゴ植物園で毎年開催されている鉄道模型展以外に、ニューヨーク植物園やワシントン国立植物園でも同じような展覧会でのデザインを手がけている。会期：2008年11月28日～2009年1月9日。次回の開催は1年後である（2009年11月29日～2010年1月3日)。
Wonderland Express.
Chicago Botanic Garden, Glencoe.
Paul Busse.
Applied Imagination, Alexandria.
http://www.chicagobotanic.org/wonderland/about.php
http://agardeningyear.blogspot.com/2007/01/straw-hats-at-nybg-holiday-train-show.html
http://www.baltimoresun.com/entertainment/bal-to.susan06dec06,0,3635676.story
http://appliedimagination.biz/index.html

英ダンディーの科学館で、ダーウィン展を開催

北海に面した英スコットランドのダンディーと聞いて、すぐ反応する人はあまりいないと思われるが、学園都市ダンディーは、1997年に世界初のクローン羊が誕生したところだ。当地にある科学館「センセーション」(2000年開館）は、クローン技術をはじめ最先端の科学技術を紹介している科学館として欧州では有名だ。

2009年はチャールズ・ダーウィンの生誕200周年と『種の起源』の初版が発行されて150年になるが、センセーション科学館でもこれにあわせて、ダーウィンの業績と、現代における彼の進化論の位置づけをわかりやすく紹介した特別展を開催した。会期：2009年2月1日～12日。同展は、ダンディーを皮切りにイギリス各地の科学館、学校、市民センターを巡回する予定だ。企画・主催：Darwin Today実行委員会。
Darwin Today.
Sensation Dundee, Dundee.
http://www.sensation.org.uk/
http://www.darwin.rcuk.ac.uk/
http://www.geocurator.org/news/DARWIN%20TODAY.pdf

＊（やすい・りょう）E-post:ZAKvaran@aurora.ocn.ne.jp

3月4月の特別展

開催館	展覧会名	開催期間
札幌市青少年科学館	特別展「(仮) 大万華鏡展2009 ～光がおりなす幻想の世界へ～」	3月20日～4月5日
小樽市総合博物館	企画展「お菓子と木型～和菓子職人の小道具～」	12月20日～3月29日
苫小牧市科学センター	巡回展「エネルギーラボ」	12月3日～4月12日
斉藤報恩会自然史博物館	特別展「ようこそ恐竜ラボへ！～化石の謎をときあかす」	1月10日～3月8日
秋田県立博物館	企画展「クラシノチカラ」	11月22日～4月12日
郡山市ふれあい科学館	「リングワールド～土星の世界～」	4月7日～5月31日
	ホワイエ企画展「第1回ふくしま星・月の風景フォトコンテスト入賞作品展」	2月3日～4月5日
つくばエキスポセンター	特別展「スポーツを科学する」	3月20日～5月31日
栃木県立博物館	テーマ展「化石からみる植物の進化」	4月18日～9月23日
栃木県子ども総合科学館	第54回企画展「ふしぎな音が大集合！音の科学展」	3月14日～4月5日
高崎市少年科学館	春の特別展「世界のおりがみ展～護ろう世界遺産」	3月20日～4月5日
群馬県立自然史博物館	第32回企画展「わかった！かわった？群馬の自然」	3月14日～5月6日
所沢航空発祥記念館	展示館イベント「感覚体感フィールド」	1月17日～3月8日
	「YS-11機及び格納庫の特別公開」	4月4日～4月5日
千葉市科学館	春の企画展「地球のかお～Worldprocessorいま伝えたい地球の姿　50～」	2月27日～3月29日
千葉県立現代産業科学館	サイエンスドームギャラリー展示「家電製品・映像機器2」	3月3日～4月12日
逓信総合博物館	狛江市立第五小学校　絵手紙展（予定）	2月24日～3月8日
地下鉄博物館	特別展「鉄道輸送の安全・安定運行の紹介」展（仮称）	3月17日～4月19日
消防博物館	所蔵品公開展示「火の用心－語り継ぐ防火の心－」展	1月10日～3月8日
多摩六都科学館	化石展「川原の小石から山地の地質を知ろう」	12月18日～3月31日
三菱みなとみらい技術館	特別展「ようこそ『きぼう』へ！－宇宙実験とわたしたちの未来」	9月13日～5月6日
電気の史料館	収蔵品展　～錦絵や写真でみる電気の歴史～	3月24日～5月10日
馬の博物館	テーマ展「狩野派の描く馬」	2月25日～4月19日
	テーマ展「馬の切手」	2月25日～4月19日
	特別展「横浜開港150周年記念　文明開化と近代競馬」	4月25日～6月7日
はまぎんこども宇宙科学館	企画展「台風がやってきた！」	12月20日～3月14日
	企画展「魔法の板・カプラ　つんで、つんで、なにつくる？」	3月20日～6月14日
新江ノ島水族館	海の恵みにありがとう	1月10日～3月15日
糸魚川フォッサマグナミュージアム	特別展「世界のジオパークをめざして－糸魚川のすばらしい地質遺産－」	(H20)4月26日～未定
立山カルデラ砂防博物館	「レンズが見た立山カルデラ」	3月20日～4月19日
	特別展「映像でみる自然の脅威と砂防」	2月13日～3月15日
黒部市吉田科学館	巡回写真展「富士フイルム・フォトコンテスト」	2月14日～3月15日
	巡回写真展「富山県ナチュラリスト協会写真展」	3月20日～4月19日
佐久市子ども未来館	巡回展示「バランスグローブ」	11月7日～4月8日
	開館8周年記念特別企画展「音のサイエンス広場　音と遊ぼう！ドレミファらんど」	3月14日～5月6日
	巡回パネル展「月のふしぎ」	1月31日～3月1日
岐阜県博物館	資料紹介展「岐阜県のやきもの」	1月24日～3月22日
中津川市鉱物博物館	第24回私の展示室「かきどおしの会」植物画展	3月8日～5月24日

開催館	展覧会名	開催期間
富士川楽座	開館9周年企画・世界天文年2009日本委員会公認企画「体感・実感・宇宙空間」展	2月28日～4月5日
	開館9周年企画・世界天文年2009日本委員会公認企画「メガスター」特別上演	2月28日～4月5日
	開館9周年企画・世界天文年2009日本委員会公認企画「宇宙と天体写真の世界」展	3月7日～4月19日
静岡科学館る・く・る	富士山静岡空港開港記念「空ののりもの」展	4月25日～6月14日
東海大学自然史博物館	特別展「カメの進化」	1月1日～4月5日
ディスカバリーパーク　焼津	「たのしい鉄道模型展」	12月13日～4月5日
名古屋市科学館	「小林・益川・下村ノーベル賞展」	1月31日～3月8日
	企画展「名古屋城を科学する2」	3月20日～4月5日
	企画展「建築家になってみよう」	3月20日～4月5日
あいち健康プラザ　健康科学館	春の特別展示「集まれ！探偵アカデミー」	3月20日～6月28日
トヨタ博物館	企画展「団塊世代のブームとクルマ」	10月15日～3月29日
	トヨタコレクション企画展「江戸のハイテク～ようこそ！和時計ワールドへ～」	3月10日～5月17日
鳥羽水族館	特別企画展「ドキドキ“サメ”展」	3月20日～(H22)2月14日
明石市立天文科学館	「世界天文年　特別展」	2月7日～3月15日
	「国際宇宙ステーション展」	3月20日～5月10日
出雲科学館	JAMSTEC巡回パネル展　はじめての海の科学	3月1日～3月29日
	木工・手工芸作品展	3月17日～4月12日
	万華鏡展	4月18日～5月17日
広島市健康づくりセンター健康科学館	企画展「笑顔でおいしく元気展」	3月1日～6月30日
広島市交通科学館	企画展「新幹線展」	1月20日～3月22日
防府市青少年科学館（ソラール）	設立10周年記念企画展「大切にしたい自然」	2月7日～3月8日
	特別展「自然界の水　台風がやってきた！」	4月15日～5月31日
徳島県立あすたむらんど子ども科学館	第20回企画展「ピラミッド・サイエンス」	3月20日～4月5日
愛媛県総合科学博物館	企画展「地衣類の世界」	2月28日～5月10日
北九州市立自然史・歴史博物館	春の企画展「ひとと海のものがたり」	3月1日～5月10日
福岡県青少年科学館	特別展「飛翔展　～遊んで学べる飛行のひみつ～」	2月14日～4月5日
佐賀県立宇宙科学館	春の企画展　温泉～「地球の恵み」を科学する～	3月20日～5月10日

リニューアル

群馬県生涯学習センター少年科学館

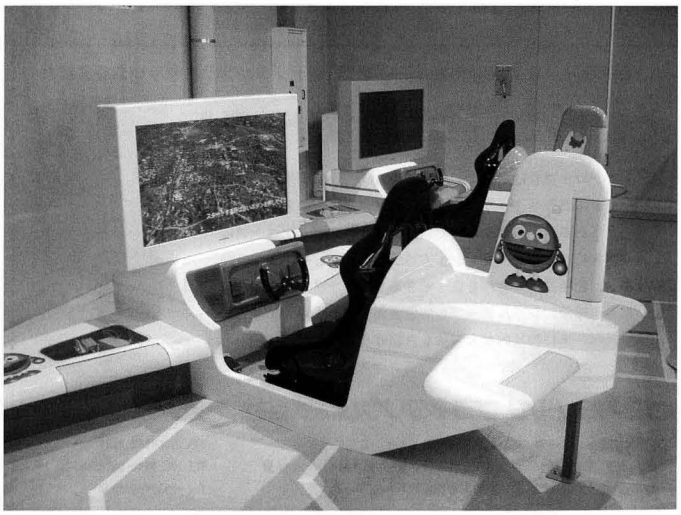
［主な更新箇所］　科学展示室「フライトシミュレータ」

［展示面積］　36.2m²

［オープンの期日］　平成21年1月24日（土）

［準備期間］　平成20年6月～平成21年1月

［担当業者］　株式会社　ソリッドレイ研究所



富山市科学博物館

［主な更新箇所］　プラネタリウム室及び準備室

［更新面積］　360.31m²（ドーム径18m）

［オープンの期日］　平成21年4月24日（金）

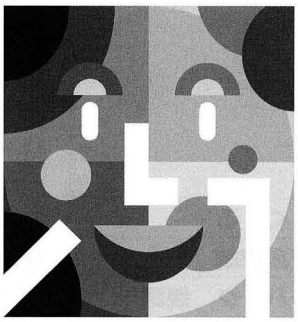
［準備期間］　2008年5月7日～2009年4月20日

［担当業者］　福見設計事務所、三由建設、
五藤光学

［総 工 費］　348,873千円

NOMURA

人が集う場、
そこにはいつも
楽しさとか、
おどろきとか、が
溢れています。



Prosperity Creator
NOMURA
http://www.nomurakougei.co.jp/

集客環境づくりの調査・コンサルティング、
企画・デザイン、設計、制作施工
ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

株式会社 乃村工藝社
本　社：東京都港区台場2-3-4 Telephone 03-5962-1171（代表）〒135-8622
営業拠点：札幌・仙台・大阪・岡山・広島・高松・福岡・那覇・ニューヨーク・北京・上海

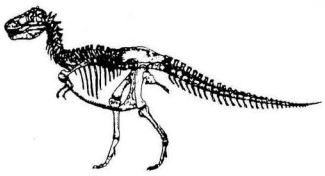
より良い「社会交流空間づくり」にむけて――。
調査・企画・デザイン・設計・制作・施工・監理・
運営およびコンサルティング・プロデュース

Tanseisha

株式会社 丹青社　〒110-8549　東京都台東区上野5-2-2
TEL.03-3836-7221（代表）　http://www.tanseisha.co.jp
札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡・那覇

*ISO14001認証取得・プライバシーマーク認定取得

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 ゼネラル サイエンス
コーポレーション
〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03（3583）0731代表　FAX 03（3584）6247

高品質表現力
文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・制御演出・施工
kokoro
株式会社 ココロ
〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL：042-530-3939　FAX：042-530-4050
http://www.kokoro-dreams.co.jp/

小さなボディーに大宇宙を詰め込んだ、最新デジタルプラネタリウムシステム
メディアグローブII（MEDIAGLOBE-II）

メディアグローブIIは世界で初めてフルカラー投映を可能にした小型デジタルプラネタリウム"メディアグローブ"の後継機種。地上で見られる星空の投映だけでなく、3D天文データベースによる宇宙旅行シミュレーションまで可能になりました。星空自動解説機能、簡単操作で番組を自作できる機能やマクロボタンなど使い易さも格段にレベルアップして運営面もご心配いりません。小規模スペースに神秘的な大宇宙をお届けます。

コニカミノルタ プラネタリウム株式会社
東京事業所　〒173-0003　東京都板橋区加賀 1-6-1　TEL (03) 5248-7051
大阪事業所　〒550-0005　大阪市西区西本町 2-3-10 西本町インテス 11 階　TEL (06) 6110-0570
東海事業所　〒442-8558　愛知県豊川市金屋西町 1-8　TEL (0533) 89-3570

全科協ニュース編集委員会
ミュージアムパーク茨城県自然博物館 資料課長
國府田良樹
大阪市立自然史博物館 学芸課学芸員　佐久間大輔
科学技術館 企画広報室次長　田代英俊
国立科学博物館 広報・サービス部 広報・サービス部参与　井上透
全科協事務局
国立科学博物館 広報・サービス部 情報・サービス課　高橋
Tel.03-5814-9863　Fax.03-5814-9898
発行日　平成21年3月1日
発　行　全国科学博物館協議会©
〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
印　刷　島崎印刷株式会社